

六甲山自然案内人の会 平成24年2月定例観察会報告書

実施日：平成24年2月11日（土）

コース：神鉄・記念碑台～ガーデンテラス～一軒茶屋～宝殿橋バス停

テーマ：冬晴れの山上コースを楽しむ（3班担当）

参加人員：ビジター18名、会員27名、合計45名

当日の配付資料：コース地図、植生リスト、神戸港物語（「大輪田泊」から「阪神港」へ）

【概要】

天気は晴れ、風もなし。厳冬期にもかかわらず大勢の参加で観察会のスタート。本日は六甲山全山縦走路の第8区間。記念碑台からみよし観音まではゴルフ場脇で代表される比較的開けた明るい小路。みよし観音から一軒茶屋までは林間で多少のアップダウンがあり、また稜線の南側や北側を交互にと野趣溢れる小路。一軒茶屋から解散場所の宝殿橋バス停までは車道沿い。このように変化に富んだ環境にどのような植物がどのようにして厳しい冬を耐えているかを観察し、そして見晴らしのいい山上コースからの遠望を楽しんだ。

【観察記】

1. 記念碑台からみよし観音まで

氷の張ったつげ池を右手に見て六甲山小学校へ。校舎の裏手（道路沿い）に薪を背負って読書する二宮金次郎の石像、なぜ陽の当たる南向きの校庭に置かないのか。日陰に育つアオキは萎れたように葉を垂らしている。スギ、ヒノキの林内を通ると赤い実を付けたカラタチバナ。その他の樹木として、落葉樹ではホオノキ、ニシキギ、タンナサワフタギ（枯葉をまだつけている）、常緑樹ではイヌツゲ、コウヤマキなどを観察。コウヤマキの葉は、長いもので20年も緑を保っているという。

ゴルフ場沿いの小路にはササ類。ネザサは途中の節で分枝、ミヤコザサは分枝せず。アジサイは裸芽（春に展開する葉が閉じ合わさっている状態）で冬を越す。この小路にはキイチゴ類が多い。茎の棘を観察すると、ナガバモミジイチゴは横向き。当日観察はできなかったが、下見の際はクマイチゴ（棘先端は下向き）、ニガイチゴ（同上向き）、ナワシロイチゴ（同下向き）を観察できた。興味のある方は、葉が展開している季節にぜひ観察していただきたい。

2. みよし観音から一軒茶屋まで

アセビの純林の中を登ってガーデンテラスへ。トイレ休憩後、神戸港と大阪港を遠望。外国との窓口は、遣隋使、遣唐使の時代は大阪の難波津。当時の神戸は大輪田泊と呼ばれ、

船の停泊地、中継地としての位置付け。平清盛が大輪田泊を修復し、経ヶ島を埋め立て造り日宋貿易の拠点に。以降、大輪田泊は兵庫津と呼ばれ、幕末の開港を経て神戸港へ。難波津が発展しなかったのは、淀川などの河川が運ぶ土砂で水深が浅かったためか。兵庫津は六甲山の造山運動の歴史と関係して陸地近くでも水深があり、外国の大型船が接岸して荷物の積み下ろしも容易だったためか。そんな説明を聞いて出発。

林間のコースは、枯葉を付けて枝を横に張っているタンナサワフタギが目につく。ツツジ類も多く、冬芽が小さな緑の葉に囲まれているものはヤマツツジ、モチツツジなど、葉は無く単に芽だけのものはコバノミツバツツジ、ホツツジ、ドウダンツツジなど。六甲山最高峰に向かう道に出る手前にはブナが植樹されている。ブナの葉は、側脈先端の葉縁がくぼんでいるのが特徴（落ち葉で観察）。

3. 一軒茶屋から縦走路分岐を経て宝殿橋バス停まで

一軒茶屋の広場でやや遅い昼食休憩。休憩所のトイレは凍結のため使用不能。仮設のトイレが置かれていた。冬の六甲山の厳しさを改めて痛感。

エノキの冬芽は、同じ場所に主芽と副芽があり、副芽は主芽が何らかの原因で展開しなかった時の予備の芽。道端にはナギナタコウジュのドライフラワーが目立つので、香りを嗅ぐ体験をしてもらおう。その結果は???。シソ科で花はきれいなのだが、乾燥すると独特のにおいであった。道路沿いにはカエデ類も多い。特徴的な冬芽を持つものとして、暖かい毛糸の襟巻を巻いたような冬芽のコハウチワカエデ、習字の筆先のようなウリハダカエデなど。ウリハダカエデの種子を飛ばすとプロペラのように回転し、ゆっくりと落ちた。これは種子から発芽した幼木が親木との生存競争に負けないように、親木からできるだけ離れた場所に着地するために風を受けながらゆっくり落下するという生き残り戦術を獲得したためだそう。

実の付いた植物として、赤い実のサルトリイバラ、薄茶色で鈴なりに付いているヤマノイモ、綿毛の詰まったガガイモなどが観察できた。ガガイモはバス停で開き、綿毛を飛ばして楽しんだ。



アカマツの木の下で



みよし観音



ガーデンテラス



何の観察??



最高峰、覗いているのは一等三角点



いざバス停へ、総勢 40 数名の行進

【後記】

厳冬期にもかかわらず、45名の参加を得て盛況な観察会となった。幸いにも天気にも恵まれ、途中で当初の防寒対策を調整する方も散見された。観察の目玉としていたキイチゴ類の棘の向き、観察できたのはナガバモミジイチゴのみで、ニガイチゴ、クマイチゴ、ナワシロイチゴの棘は見失って実物を観察できなかったことは反省すべき点である。葉が展開している季節に再度観察していただきたい。